令和6年度第2回社会教育委員会会議 会議録

開催日	令和6年10月11日(金)	開会時間	10時00分			
会場	市役所6階 602会議室	閉会時間	11時30分			
委員の出欠状況	齊藤 俊光	出	水野 晶子	出	◎久米 隼	出
	佐野 一機	欠	鈴木 敬一郎	欠	山崎 雄一	出
	柳下 和弘	欠	富澤 仁	出		
	佐々木 元子	出	伊藤 芳夫	出		
	中根 敏博	出	○森田 圭子	欠		
	小見山 映二	出	泉 常夫	出	◎議長 ○副議長	
傍聴者	1名					
事務局	【教育委員会】 石川教育長、横山教育部長 【生涯学習課】 細野課長、山本課長補佐、鈴木副主幹兼統括主査、中央公民館 長峰館長、坂下公民館 江口館長、南公民館 南雲館長、図書館 小林館長、図書館下新倉分館 戸田館長					
議題	1 和光市教育振興基本計画中間評価について 2 社会教育推進に関する意見交換について					

1 開会

2 あいさつ

○石川教育長

皆様おはようございます。本日はご多用にも関わらず、第2回社会教育委員会会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。厳しかったあの夏の暑さもだいぶ和らいで来て、過ごしやすい季節になってきたなど感じている今日この頃ではないかと思えます。

さて、前回の7月23日、第1回社会教育委員会会議では、今年度の和光市教育行政アクションプランと事業計画について議論をいただき、ありがとうございました。この教育行政アクションプランの大元に当たる和光市教育振興基本計画がありますが、これは令和3年度から7年度までの5カ年計画となっております。ということは、来年度、令和7年度には、第2期の和光市教育振興基本計画の策定を行っていく時期にあたってまいります。

ご存じのように、この和光市教育振興基本計画には、令和3年度に社会教育委員会よりいただきました答申を踏まえておりますので、第2期の和光市教育振興基本計画の策定に向けて、これまでも委員の皆様にはご意見等伺い、会議の中で議論をいただいているところではありますが、改めて委員の皆様のお考えをお寄せいただきたいと考えているところです。このことにつきまして、この後、担当から説明させていただきますが、ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

3 議題

議題(1) 和光市教育振興基本計画中間評価について

○久米議長

皆さん、おはようございます。本日は、大変ご多用のところご出席いただきありがとうございます。私からも御礼を申し上げます。

さて、会議が始まる前に、私から少しご報告をしたいことがございます。

前回、会議で皆さんに、ぜひ地域の活動に足を運んでいただきたいとお願いをさせていただきましたが、私もお願いしたからには率先しなければと思ひまして、先月の末に図書館の下新倉分館を訪問し、「赤ちゃんと楽しむ絵本とわらべうた」という、未就学児向けの企画の視察をさせていただきました。

この日はあいにくの空模様でしたが、1歳から3歳までのお子さんが3名参加されて、市民の読み聞かせのボランティアの方々のレクチャーを受けながら、絵本とわらべうたを笑顔いっぱい楽しんでる親子の姿を拝見することができました。

読み聞かせのボランティアの方々は、様々な工夫をして、親と子に絵本やわらべ歌を楽しむだけではなくて、家庭に「持ち帰る」ということができるような工夫をされていました。

例えば、「絵本の選び方のアドバイス」や、わらべうたひとつにしても、子供がこうやったら喜ぶというポイントを伝授するなど、先ほど教育長から話がありました答申でも、「家庭教育を支える社会教育」ということを1つのポイントにしていますが、その実践が今回の企画にも感じられました。

また、訪問時には、下新倉分館長ともお話しさせていただきました、「細々とでも継続していくことの重要性」についてご教示いただきました。

様々な事業を行って、評価するときによく数値化して評価をします。「受益者」、わかりやすく言えば「来場者数」だと思ひますが、今回の「赤ちゃんとわらべうた」でいうと、来場者3名の子供と親ということになるかと思ひます。しかし、これに社会教育の観点で評価をするならば、私は読み聞かせのボランティアの方々にもしっかり目を向けなければいけないと思ひます。

先ほどお伝えしたような家に持ち帰る工夫といったことはすぐにできるものではありません。おそろく、日頃からたくさん練習をして、この企画に向けて試行錯誤されておられるのでしょう。

今回のような活躍の場があることが、ボランティアで活動するの方々の目標のひとつとなり、そこに向けた学びにもつながり、広い意味で親と子、そして地域の住民が共に学び合う「社会教育」の効果であり、意義ではないかなと考へています。

今回の会議では、先ほど教育長からも話がありました。事業の評価に関する議題を取り上げる予定になっております。社会教育の実践者でもある皆様から、地域の様々な活動、その場で見聞きされている委員の皆様からもぜひご意見を賜り、和光市の社会教育を私たちの手で活性化させていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

○事務局(鈴木副主幹)

では、今回の議題にあげさせていただいております、和光市教育振興基本計画の中間評価について、ご説明いたします。

「和光市教育振興基本計画の中間評価について」という1枚のペーパーをもとに説明をさせていただきます。

きます。

・評価の対象について

和光市教育振興基本計画には、10の基本施策を定めております。今回配布させていただいております基本計画の31ページに、「本市が目指す教育の基本理念と施策体系」ということで、下段の方に、10の基本施策という形で1から10までの施策を定めております。実際に、この施策の中身は42ページ以降に各論というかたちで掲載をしておりますが、今回は社会教育委員会議ですので、この10の基本施策のうち、社会教育に関する施策の取り組み内容を対象にしたいと考えております。こちらペーパーにもありますが、10の基本施策のうち、学校教育に関するものは今回評価の対象外としたいと考えておりますので、施策の1から4につきましては、今回は対象外と考えております。

冊子の50ページに施策の5として、家庭や地域社会との連携、協働による教育の推進と定めておりますが、こちらの施策の展開のうち、施策の3につきましては、地域学校協働活動に関する施策ですので、こちらのみを今回の対象としたいと考えております。施策3「地域を支える組織や関係機関等との連携、協議」、こちらが地域学校協働活動、社会教育を担う部分がございますので、こちらを対象としたいと考えております。

次の52ページに移りまして、こちらは学校施設に関する整備の話です。こちらは学校教育に関するものでありますので、対象外とさせていただきます。次の54ページから、基本施策7「児童や青少年の居場所づくり」から順番に、施策8「生涯学習の振興」、施策9「歴史的・文化資源の保存、活用と創造的な文化の振興」、そして最後の基本施策10「スポーツレクリエーション活動の推進」。こちらの基本施策を今回の中間評価の対象としたいと考えております。

実際の評価の対象として考えているのは、この中の主な取り組み例として、実際の取り組みに関して評価をしていただきたいのですが、そちらについてはまた後ほど評価シートの方で説明を差し上げたいと思っております。

・評価の手法について

参加人数や満足度といった数値的なデータを用いる手法は定量的評価ですが、こちらについては各施策の中で指標として数値的な目標は既に定めてあります。

今回は、社会教育委員の皆様による評価の視点として、定性的評価をしていただきたいと思っております。こちらは、評価者の方々のお考えや観察に基づいて評価する手法で、社会教育や教育分野のほうで広く用いられている手法です。数値では捉えきれない複雑な現象や事象を明らかにすることで評価できると考えております。例えば、数字を追い求める評価よりもその内容的なところを見ていただきたい。専門的なことがありますので、今回は定性的評価による評価をお願いしたいと考えております。

・評価シートについて

具体的な評価のイメージとして、中間評価シートの案を作成させていただきました。中身が何も書いていない様式の案と、その作成案として、施策7「児童や青少年の居場所作り」を例に作らせていただ

きました。

施策7「児童や青少年の居場所作り」というのは、この基本計画の冊子でいうと54ページに記載がある施策です。

上段から、まず施策名「児童や青少年の居場所づくり」ということで、施策の概要として「児童が身近な地域で友達と触れ合いながら安心して過ごすことができ、青少年が社会の責任ある一員として成長できるようにする」というのが目標となっております。

こちらの現状と課題につきましては、ここに列挙したものになっております。こちらは基本計画からそのまま書かせていただきまして、真ん中から下段の方につきましては、この計画の対象となる3年度から5年度までの指標や結果を記載させていただきたいと考えています。

この場合ですと、わこうっこクラブの登録児童の割合の推移や、青少年関連の団体数、また青少年育成の関連団体と人材数の今までの実績を掲載させていただきました。裏面に、具体的にこの施策についてどういう取り組みをしていたのかを記入をさせていただきました。

例えば施策1として、「学童クラブとわこうっこクラブの一体型施設または一体的な運営による放課後の児童の居場所づくりの推進」という施策を掲げておりますが、この概要としましては、国の新・放課後子ども総合プランに基づく、「学童クラブとわこうっこクラブの一体型施設または一体的な運営により、放課後等における児童の居場所の充実を図ります」「既存施設や小学校の教室等を最大限活用するなど、放課後の場所を確保します」「イベント型事業である子ども教室をわこうっこクラブに包含し、地域と協力して実施します」。

これを受けての具体的な事業や取り組みにつきましては、「わこうっこクラブを学童クラブとの一体型事業として全校において開設し、全ての児童が放課後等を安全安心に過ごせるよう推進する」「わこうっこクラブに子ども教室を包含し、地域の協力のもと、児童が多様な体験・活動を行うことができるように充実を図る」。

ここの取り組みに対しての行政側の自己評価としましては、「一体型運営により、施設によっては、学童クラブとわこうっこクラブの子供が日常的に交流することができ、また、どちらの児童も参加できるイベントが開催できた。また、スタッフも連携することができ、効率な運営ができています。今後も指定管理者との連携による円滑な運営を図り、子供が安心して安全に参加できる環境づくりに努めていく」というかたちで、この施策1の部分につきましては、施策の概要と具体的な取り組みの自己評価とセットで記載をさせていただき、これを施策の分だけこちらの評価シートの方に掲載します。

ここまでを事務局で記載させていただき、これを受けて、社会教育委員の皆様にご意見やご提言をいただきたいと思っています。箇条書きで記載していただく方がよろしいのではないかと思います、こういった書式にさせていただきます。

こちらについて、皆様が日々見聞きしたり、これはどうなのかというところを、「社会教育委員の意見・提言」に記入をお願いしたいと考えております。いただいたご提言について、その取り組みについて、例えばおおむね前向きなご意見が多かった場合はこのまま継続に向けて検討する。改善が必要というご意見が多かった場合は、改善して継続を検討する。これはしっかり見直した方がいいというご意見が多かった場合は、必要に応じて事業の大幅な見直しを検討するということを事務局の方から回答させていただくような流れを考えております。

今日はこの場で、この評価シート案や、評価方法、評価対象とかについてご協議いただきまして、次回12月に予定している社会教育委員会会議の場で、皆さんの協議内容を反映したシートの方を確認いただきます。その後事務局で対象となる基本施策分の評価シートを作成し、委員の皆様にご配布させていただければと思っております。3月に予定している第4回の社会教育委員会会議において、集計結果等

の報告をさせていただきたいと思います。3回目から4回目の間に評価の期間を設けさせていただき、第4回の会議で皆様からいただいた意見の集約、結果報告をさせていただいて、中間評価については一旦完了とさせていただければと思っております。

中間評価につきましては、事務局からの説明は以上となります。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございました。

確認しますと、今日のところはこの評価シートを固めるというところで、今後の流れとして、この評価シートが完成したら、それ以降各委員の皆さんに評価をお願いするという流れでよろしいでしょうか。

○事務局(鈴木副主幹)

はい。

○久米議長(議事進行/質問)

ありがとうございます。それでは協議に移りたいと思います。ただ今、事務局から説明があった内容を踏まえて、皆様からぜひご意見をいただければと思います。とはいえ、なかなかこう意見しづらいところもあるかなと思います。私から、ポイントになると思ったことをお伝えしてもよろしいでしょうか。

まず、この評価シートですが、とてもわかりやすくまとめていただいております。一方で、こちらの資料のグラフと数値は、この冊子(和光市教育振興基本計画)に載っていないものになるため、大きめにレイアウトいただいて、書きやすくしていただければと思いました。「意見・提言」は、もう少し枠を広げて書きやすくしていただきたいと思います。

あと、委員の皆様にも、私だったらという提案ですが、本日この評価シートの案を皆さんにご承認いただいたら、自己評価を事務局でご用意いただくとありますが、先ほどのご提案ですと、12月にまた次の会議があり、提出期限が1月とかですかね。そうすると、12月の次回開催日によると思いますが、評価シートをいただいてから提出までが2か月ほど。その間に年末年始を挟みますから、なかなか現場に見に行くというのは難しいかなと思います。定性評価なので、現場を見に行ったり、もしくはその参加者の声を聞いたりとか、そういったことがかなり重要なポイントになると思いますので、ぜひ本日以降で少し時間を見つけて様子を見に行っていただければと思います。

例えば、こちらの案を見ていただくと、施策の1「学童クラブとわこうっこクラブの一体的な施設、または一体的な運営」のところですが、こちらの数値の指標でいうと登録者の割合になってしまいます。要するに、参加登録がどれくらいされているか？でしか数値的な評価が難しいということです。これを我々社会教育委員として、より専門的に評価をするのであれば、例えば、施策概要の3つ目の「イベント事業である子ども教室をわこうっこクラブへ」というところに「地域と協力して」とありますが、地域と協力して一体どういうことをやっているのかとか、こういう点は数字に出てきづらいところです。

あとは、例えばその下の具体的な事業・取り組みにも、1つ目に「放課後等を安全安心に過ごせるよう推進する」と書いてありますが、では安全、安心に過ごせるようにどのような工夫をされているのかというあたりまで数値にはしにくい。その次の「地域の協力のもと」。これもどういう協力がされているのか。

また、「児童が多様な体験活動を行うことができるよう充実を図る」。この多様ってというのは一体なんなのだろう。こういった、なかなか数値に現れにくいところを我々の方で評価をして、この社会教育委

員の意見や提言としてまとめていければと私は思ったのですが、そのようなイメージでよろしかったでしょうか。

○事務局(鈴木副主幹)(回答)

そのようなイメージです。ただ、実際に何をしているのか、見えづらい部分があるとは思っております。例えば、今回のわこうっこクラブだと、実際に多様な体験ってどういうことをしているのか、地域との連携とか。多分この文面だけで評価するのはなかなか難しいと思いますし、具体的に何をしているのか疑問に思ったことは担当課に聞いていただいて、それに基づいた評価をしていただければと考えております。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。かなり評価に時間がかかると思いますので、ぜひちょっと時間をかけてじっくり見ていければなと思っております。

その上で、社会教育団体の皆さんもいらっしゃいますので、ぜひこの評価について、やり方も含めてご意見等いただければと思います。

例えばですが、佐々木委員含め各団体の皆さんにお伺いできたらと思うのですが、例えば、数字で言うと、青少年育成関連団体数というのは皆さんの団体に対する評価だと思うのですが、団体数が減ってしまっていると見られてしまうと思います。ただ、おそらくその裏側に色々工夫をされていると思いますので、ぜひそういったところも反映できたらと思っているのですが、何か評価しにくいとか、逆にしやすいとか、こういう評価があるのではないかとか、ご意見等いただければと思いますが、佐々木委員いかがでしょうか。

○佐々木委員(意見)

文団連自体が、団体数が年々減ってきていまして、その中の人数もだんだん少なくなってきました。私は書道関係の活動をしていいますが、15年くらい前だったら、子供が小学校1年生になったらお習字に行くという感じだったのですが、今は、親もお習字なんかしないでいいという感じで年々減ってきています。文団連の参加人数もだんだん減ってきていまして、今現在17団体で、人数は、207人。今年が50周年になりますが、当初の半分以下で、消えた人の分どうやって増やしたらいいかっていうのが悩みの種です。

年に1回の書き初め、それも昔だったらお家で練習もされたのでしょけども、今は当日するだけです。私は白子小学校の書初めに今年参加しましたが、筆の扱い方も知らない、お稽古する時にも筆がカチンカチン。だから、まず初めに筆を洗うことから始めたのですが、難しいですね。本当にどうしたらいいか。アイデアがあったら教えていただきたい。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。今みたいな話は数字には出てきづらいところだと思いますので、ぜひそういった、実践されている方だからこそそのご意見を反映できたらなと思います。

その前に中根委員にお尋ねできたらと思いますが、例えば、61ページにスポーツレクリエーションの話も出たりしています。このあたり、最新の数字がわからないのですが、何かスポーツ関係の方からご意見等あればお願いできればと思うのですがいかがでしょうか。

○中根委員(意見)

この対象については学童ではなく、一般の市民です。それぞれスポーツのレクリエーションがありまして、例えば色々な教室ですね。例えばグランドゴルフ、あとは野球とか、かけっこ教室とか、声かけをしてそれぞれの指導者を招いて、そういういろんな体験型のイベントをやっています。そういうことで、お互いに、中学校区を超えた子供たちの交流という観点では、非常に効果が出るという風に認識しています。

前にスポーツ体験フェスタという行事がありまして、それもいわゆる体験型のイベントということで、年代問わず、実際には小学生の数が多のですが、そういうことを推進するというかたちで引き続き計画します。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。そうしましたら、そのまま小見山委員。今回は幅広い活動をされている皆さんがいらっしゃいますので、ぜひ多様な視点からご意見いただければと思っています。

○小見山委員(意見)

元々ボーイスカウトはボランティア団体というのと、もう1つ和光市では南公民館の講座のお手伝いをしていまして、主催しているものは何もありません。「わこらぼフェス」とか「市民まつり」とか「スポーツフェス」とか、そういうもののお手伝いしています。そうすると、ボーイスカウトの場合は自己評価ってどうやって書いたら良いのでしょうか。

○泉委員(質問)

今、基本施策の5、7、8、9、10、それぞれに施策が何個か紐づいていますね。それについて全部、社会教育委員の意見・提言を聞きたいと、全項目についてということですね。その全体の資料っていう形で、事務局の自己評価までできた状態で私たちの方に回ってくると。それを踏まえた上で、個々の施策について私たちが思ったこと、感じたこと、あるいはこういったことをしてもらいたいということを出すということでしょうか。それが全体でいわゆる中間評価という、そういう認識でいいのですね。私たちはあくまでも、自己評価までできたものに対して、「実際はどうなったの」「そうだったのね、よかったね」、「じゃあもう別の方法があるのではないかな」ということを書けばいいのですね。

○事務局(鈴木副主幹)(回答)

そのとおりです。私の説明が不足し申し訳ありません。この評価シートは、事務局側で、取り組み内容と自己評価まで書かせていただきます。それに基づいた社会教育委員の意見・提言というところを委員の皆様にご書いていただければと思います。自己評価までは事務局で行ったものを皆様にお渡しして評価していただく、と考えておりますので、よろしく願いいたします。

○久米議長(議事進行)

おそらくですが、自己評価という言葉が、もしかしたら、誰が自己なのかわからないのかもしれませんが。あくまでも行政の事業に対する評価を、我々の視点からするというところで。評価をするために、評価した結果を見て、それをどういう風に受け止めているかというところでご理解いただければと思います。

水野委員、お願いできますでしょうか。

○水野委員(意見・質問)

このベースを拝見させていただくと、先ほど議長がおっしゃられた、このグラフとかその辺りの数値をもし載せるのであればもう少し分かりやすい方がいいのかなと思います。あと、例えばこのわこうっこクラブの登録児童割合がありますが、地域格差はないのですか。

○事務局(鈴木副主幹)(質問に対する回答)

実際、それほどないです。市内9校ありますが、概ね、5割程度、40%台後半からで、どこが低いとか高いというのはいないです。

○水野委員(意見)

そうなのですね。そういったのも必要なのではと思っています。例えば、南地区は働いている方が多くて登録が少ないとか、逆に北の方は昔から住んでいる方が多くて登録している方が多いとか。そういったところまで分かった方がコメントしやすいのかなと思いました。ただ、出せるところと出せないところがあると思いますので、その辺はご検討いただければと思います。

あと、指標とかグラフを載せるのであれば、それについての目標と実績が載っていて、それについての感想というか、意見みたいなものと、中間的な、今年度までを受けての評価があった方がいいのかなと。目標と実績を載せるのであれば、それについての思いがあった方がいいのかなというところでは。

あと、この団体数と人材数とかがよく分からなくて。関わる人材、団体数が減っても人材数が増えればいいのか、それとも逆に人材数が少なくても団体数が増えることがいいのか、そういったことが分かりづらかった。他の施策に対しても同じだと思うのですが、評価がもう少ししやすいようにしていただけるとありがたいと思いました。シートに関しては以上です。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございます。今の意見は、どちらかと言ったら次の計画策定の話にもなりますかね。変えることは難しいというか、もう動いているものなので、今後の計画策定の時にご意見いただければいいのではないかと思います。

○事務局(鈴木副主幹)

そうですね、今みたいに評価しづらいとか、評価の有効性としてこの指標どうなのというご意見も、次の計画の指標を選ぶときの基準に反映できるので、そういったご意見もこの中間評価でいただけるととてもありがたいです。

○水野委員(意見)

そうですね、先ほど議長がおっしゃったみたいに、いろんな団体のところに足を運んで評価できるのが本来は1番いいと思うのですが、時間の関係上難しいこともあるので、この自己評価シートをもう少しわかりやすくしていただけると、私たちも評価しやすいと思います。

○事務局(鈴木副主幹)

ありがとうございます。

○久米議長(議事進行)

では富澤委員お願いします。

○富澤委員(意見)

民生委員・児童委員の立場といたしましては、やはり基本的に対象が高齢者、障害者、学童、児童ということになりまして、対象となる基本施策、5番、6番、7番になると思います。

で、実際に私も毎月小学校の方にお伺いして、特に五小は学童クラブとわこうっこクラブが一体になっていますので、毎回見ることができます。そういうことに関しましては、5番、6番、あと7番に関しましては、このシートが出る時にある程度意見・提言というのはできるのですが、活動内容的に、特に9番、10番に関しましては、実際に施設に行ったことがない委員が、私含めて多いと思います。そうすると、極力見るようにはいたしますけれども、やはり得意分野と得意じゃない分野があると思うので、それを例えば私に関しましては、特に5番は、ある程度知識があってそれなりの意見等は出せるのですが、10番に関しましてはそれほど知識がない。そういう立場で、やはり得意な分野だけ評価をして、ちょっとこの辺は一応見に行きましたけどもできませんみたいなかたちではいけないのか。やはり全項目に対して委員として評価を出す必要があるのか、その辺もお聞きしたいと思います。

○久米議長(議事進行/意見)

ありがとうございます。私の意見としてお伝えすると、やはり全体を見ていただきたいというところはございます。おっしゃる通り、得意なところっていうのですかね、自分に直接関わりのあることはたくさん書けますし、そうでないところもあると思うのですが、逆にそうでない立場からその事業を見た時にどう見えるのかということも大事な指標だと思いますので、参考になる情報にもなると思います。例えば、チラシなどを見ていただいて、あまり情報が載ってないということも大事なご意見だと思いますので、そこも含めてお寄せいただければなど。ただ、最終的に出す時には、あくまでもこの会議として、提言としてまとめるのですか。

○事務局(鈴木副主幹)

そうですね。いただいた主なご意見を集約した結果とその意見というのは、それぞれの施策について今後の取り組みをどうするか、こちらで記載し提出するようになります。

○久米議長(議事進行)

あくまでも会議として出しますので、1人1人の意見はみんなでもまとめて。そうすると、大体皆さん得意分野は異なると思いますので、まとまった形で出せるのではと思いますので、よろしく願います。

では、伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員(意見)

地域の自治会として、この施策についてはほとんど親密に関わる場所だと思います。今、地域学校協働推進の施策が出ていました。校長先生と地域の自治会とのコミュニケーションをよく取らせていただいておりますので、学校の授業・行事以外に、わこうっこ・学童クラブなどは、地域の事業と、それから残ってらっしゃるお子様たちに新しい事業をやらせていただいております。市の政策で防災訓練な

ど行っておりますが、そうではなくて、子供たちに本当に身につく、地域でやっている防災訓練。学校と市の施策以外で、地域の各自治会が学校長と一緒にやらせていただきますので、非常に関わりが多いと思います。それから、この中では(登校時の)見守りも、学校の登校日の180 幾日か、毎日必ずやらせていただいています。スポーツ振興も少年サッカー、スポーツ、それも地域で一生懸命にやらせていただいています。ただ、先ほど水野委員がおっしゃったように、非常に地域特性がありますので、古い自治会と新しいマンション、そのデータの収集はやはり分けていただいた方が、分かりやすいのではないかと思います。

あと、人材確保なのですが、各学校の校長先生が色々ご尽力いただいて、今、各学校の地域の人材をかなり集めてらっしゃると思いますので、そういったところも細かく出していただければ、評価や意見等、お話をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

学校関係で齊藤委員からも、この話の流れでお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○齊藤委員(意見)

このシートについてですと、この教育振興基本計画の施策7の指標では、児童や青少年の居場所づくりの満足度というのが掲げられていて、こちらの資料の方では、この登録割合で変わっている部分は、振興計画とこの間に何か別の計画があって文言を変えているのか、それとも、もし振興計画を単純にダイレクトに評価という形で行くならば、なるべくここの指標に合わせた方がいいのかなというは少し感じたところです。

あとは、結果というよりは、まだ途中なので、推移みたいな形の表現の方がいいのかなと思いました。

あとは、学校教育が対象外ということになっているのですが、学校教育には学校教育のシートがあつて、社会教育には社会教育のシートがあるというような、そんな認識ですかね。

○事務局(鈴木副主幹)

今回は社会教育委員会議という場ですので、主に社会教育を扱う会議でございますので、社会教育に絞った形での評価ということをお願いしたく、このように評価対象を分けさせていただいています。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

では、泉委員、お願いいたします。

○泉委員(意見)

今数えたら、20 の施策があります。20 の施策それぞれについてですと、かなり労力とか時間がかかります。先ほどの話だと、2ヶ月程度っていう話でしたけど、時間的な問題も含めてなかなか無理な感じがしています。ここら辺をどうしたらよろしいのかということと、それから事業の内容、参考例として挙げてらっしゃるのですけども、もしその20施策に対して私たちがどういう形で、例えば見に行ったり、お話を聞きたいとか、そうした場合に、具体的にどういう場所でいつ行けるかということまで落としてほしいなという感じがします。児童センターもいくつかありますよね。例えば、児童センターとい

う話で、どこに対してどういう形のアクションをして、それに対して結果こうなっていますとか、そういう参考的なものも具体的に入れてほしいなと思います。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

続いて山崎委員、お願いいたします。

○山崎委員(意見)

まず、評価シートについてなんですけど、特に問題はないのかなと思って見ていました。あとは、行政が自己評価をされて、それについて委員がどういう形で書けるかっていうことをこれから日々勉強していこうかなと思っています。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。今のところで何か事務局からありますでしょうか。

○事務局(鈴木副主幹)

そうですね、富澤委員のおっしゃられた、どうしても得意分野、不得意分野っていうものが出てきてしまうかなと思っております。日々の活動に関連がある項目については評価がしやすいと思うのですが、逆に言うと、普段見えていない、そういった分野について、こちらの行政側の情報提供が足りない、例えばホームページや普段のお便りなど、そういったところも評価の1つなのかなと思っております。事務局の情報提供がうまくいってれば、ホームページを見たりして評価ができる。おそらく、そこがうまくいかないと不安に思われているのは、我々の情報提供がもしかしたら足りないことが原因なのかなと、お話を伺って感じております。そこについても評価としていただければ、情報提供の方法も改善に繋がると思いますので、合わせて評価いただけるとありがたいです。

もちろん評価ももう少ししやすいような形で、どういったものを掲載するか、今日のいただいたご意見で検討させていただきますので、それも含めて持ち帰らせていただければと思います。ありがとうございます。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございます。私から、今のところを踏まえて皆さまからご意見をいただいたもの、もちろん反映できればしていただければと思うのですが、一方で、やはりどこに見に行っているのかわからないというところも多々あると思います。少しその辺り、情報提供っていうのですかね。前回、事務局から資料を送る際にチラシを入れといてくださいとお願いしたら、皆さんにも入っていたと思います。あれを参考にさせていただきました。またホームページとかちょっと見たら、先ほど分館の話もありましたけど、そういった情報も、自分でキャッチしに行かないと得られないのはなかなか難しいところですが、ぜひそういった情報提供も引き続きお願いできると、我々の評価がより質的なところで見られるかなと思いますので、よろしく願いできればと思います。

そしてその中でも、本日図書館まつりのご案内をいただいておりますが、よろしければ図書館からご説明いただくことは可能ですか。もう早速皆さん見に行くチャンスをいただいておりますので、お願いできますでしょうか。

○図書館(小林館長)

図書館長の小林と申します。図書館まつり、コロナで縮小開催が続いておりましたが、今回は飲食の提供などもあってコロナ前のような感じで開催いたします。もし、お時間がありましたら足を運んでいただければと思います。

また今年度、講演会が10月26日にあります。中島京子さんという直木賞作家の方です。和光市で幼少期を過ごされた、和光市にゆかりのある方なので、今回お招きすることができました。こちらは定員がいっぱいになってしまったので、キャンセル待ちになってしまうのですが、よろしければお申し込みお待ちしております。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございます。こちらに関しては、参加する時は26日は難しいとのことで、27日の分に関しては、特に申し込みなどはないということです。こちらが施策の、例えば7とか8ですかね。児童や青少年の居場所づくり、居場所としての図書館ですとか、生涯学習の振興、図書館機能の充実というところがここにあっておりますので、この辺りもご参考になる活動だと思っておりますので、よろしければお立ち寄りいただければと思います。

では、今ご意見たくさんいただきましたが、評価シートに関して、その他何かございますか。

～異議なし～

ありがとうございます。では、今皆様からいただいた意見を反映していただいてですね、評価シートの作成をお願いできればと思います。

議題(2) 社会教育の推進に関する意見交換について

○久米議長(議事進行)

社会教育全般に関してご意見があればお願いしたいと思っております。まさにこの評価に直結すると思うのですが、皆さんの活動を前回一言でご紹介いただきましたので、例えば今後こういう予定ありますといった、宣伝とか、そういった情報提供もぜひお寄せいただければなと思います。例えば、書道のメンバーであったり、教室見学できるチャンスがあったら教えていただければということで、そのような情報提供の機会として皆様から一言ずつお願いできればと思うのですが、いかがでしょうか。

斉藤委員からお願いできますでしょうか。

○斉藤委員(意見)

県立学校から参加させていただいております。県立学校は市内に4校、高等学校が2校、特別支援学校が2校あります。先ほど委員の方々からも出ておりました、地元と自治会さん、その繋がりという面で、高等学校や特別支援学校はまだ遠いと言いますか、先ほどの評価で言うと不得手な部分と言いますか。そこでどう評価していいのかとってしまうようなところがありまして。情報は自らキャッチしなきゃいけないというお話をいただきましたけれども。ただ本校も、和光にある特別支援学校なのですけれども、昨年度からコミュニティスクールになって、ようやく1年半ぐらい経ったところです。地域の方々でできれば学校教育に入ってきていただきたいと、その窓口を作り始めたところでございます。そんな中で、今後書道とか公民館とか、いろんなどころで何か連携できないかと考えているところがございます。

また色々ご相談させていただくこともあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

佐々木委員、お願いいたします。

○佐々木委員(意見)

11月17日は市民祭りがあるのですが、広場のところの舞台のちょうど真正面反対のところ、文団連といたしましては、無料のコーヒーを配布します。無料ですのでお立ち寄りください。

それと、先ほども言いましたように、文団連は今年50周年で、来年の1月16日にサンアゼリアの小ホールで小さなイベントをしまして、アンサンブル、合唱と桂文吾さんの落語をやります。もちろん無料ですので、ぜひお越しくださいませ。以上です。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

では、中根委員、お願いいたします。

○中根委員(意見)

中学生の職場体験とか、幅広く色々な職業を体験させるというのも1つの魅力だと思いますので、市としても、商工会とかそういう団体の方と連携して、幅広く経験させるというのが良いのかなと考えています。あと、子供たちの安心安全を確保するという観点で、わこうっこクラブと学童クラブとの一体化が話題に出ましたが、予算とかにはある程度の限界があると思います。おそらくその一体化というのは、効果的な学校教育をするという観点だと思いますので、指定管理者との連携だとかいろいろな問題点があるかと思いますが、人材不足というか、学校教育についても実際に職員の方が少しでも不安であれば、人材的な部分を地域と連携して。例えば、学童クラブの求人とか見ると、教員免許、あと幼稚園教諭の免許、あと社会福祉士とかありますよね。さらにもっと幅を広げて、シニアクラスの方で社会経験が豊富な人とか、そういうところもある程度集めれば、よりきめ細かな指導ができるのかなという風に感じました。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

では、小見山委員お願いいたします。

○小見山委員(意見)

教育の参加という点でいきますと、市民祭りでブースを作って、低学年の児童を対象に、ゲームや工作をやるつもりです。南公民館で10月27日の日曜日、選挙の日ですが公民館は使えるとのことなので、イベントの準備を進めています。これは南公民館の宣伝にもなりますから、ぜひ見に来てください。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。南公民館長から何かあれば。

○南公民館(南雲館長)

ありがとうございます。今、小見山委員からご説明いただきました通り、10月27日の日曜日、主に子供たちとか親子を対象とした事業ということで、屋外でのキャンプのような、自分で火を起こして、今回がピザを手作りで作って、それを作った窯で焼くというようなことを企画しております。親子対象ということで、基本的には子供たちがメインになるかなと思いますが、そういった活動、それ以外にも様々な講座を、これから秋のシーズンに向かってどんどん企画・実施していきます。おそらく広報とかホームページでご覧いただける機会はあるかなと思うのですが、ぜひご参加いただければと考えております。

また、せっかく議長から話を振っていただきましたので、この場をお借りして。来週 18.19.20 日で公民館まつりが控えております。今日パンフレットお持ちすればよかったのですが、3日間通して公民館まつりを行いますので、ぜひ足を運んでいただければと思います。また中央公民館の方でも 25.26.27 日に文化祭を控えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございます。公民館事業というのは、ほぼ全部に関わってくるようなところですので、ぜひ視察しておいていただければと思います。

では、水野委員、お願いいたします。

○水野委員(意見)

先ほどからお話の上がっていた11月17日の市民祭りの時に、和光二中の体育館を使った、ふれあい広場というのを行っています。市役所とかサンアゼリアの周りのメイン会場の宣伝というのはかなり力を入れてやっていたのですが、実はちょっと離れた二中の体育館とか校庭でも、市 P 保連が頑張って子供たちを集めたイベントをやっております。あまり周知されてないかなというところで、去年もわこうっちに途中で来てもらったりしました。お子さんたちが最初にばーって来るのですが、お昼前ぐらいになると少し減ってしまって盛り上がり途中で萎んでしまうのです。市 P 保連が頑張っておりますので、宣伝をしていただければと思います。市 P 保連の方でも、7つぐらいの学校が、学校ごとのブースを構えてやっておりまして、私が所属している二中の方ではペットボトルボーリングということで、お菓子とか景品を用意してお子さんたちに楽しんでいただいておりますので、もしよければ覗いていただければと思います。

その他、私、防犯ネットが主催している、子供安全教室のアシスタントをやっておりまして、1年間を通して全小学校の2年生を対象とした安全教室のお手伝いをさせていただいております。昨日も本町小に行ってきたのですが、その中で聞いたのが、防犯ネット主催の防犯講演会というものが1月29日にサンアゼリアで10時から行われるそうです。まだチラシができてないということなのでお配りできないのですが、今回は大阪の池田小事件の被害者の保護者の方が講演にいらっしゃるということなので、もしご興味のある方がいらっしゃったら、足を運んでいただければと思います。

また、私は地域学校協働活動で本町小の地域コーディネーターとして活動しております。郵送していただいた資料の中に、ふれあい通信が入っていたと思います。これに写真がたくさん載っているのですが、8月7日に中央公民館の夏フェスが初めて開催されました。この間、反省会もやりました。改善点はたくさんありましたが、非常に盛り上がりまして、とてもいいイベントだったと思いました。たくさんの方にいらっしゃっていただいて、公民館を周知していただくという意味合いでも非常に良かったなと思っているのと、和光国際高校の生徒さんですとか二中の生徒さんがボランティアで参加していただいたのですね。お祭りを楽しむというよりは、スタッフとしてお手伝いいただいたのですが、そういっ

たお子さんたちにも多分公民館がより身近に感じられたのではないかなと。イベントを楽しむだけでなく、自分がスタッフとして働いてみることによって、公民館のあり方や、公民館でこういうことをやってるのだとか、公民館に実はこういう場所があるのだとか、そういうことを知る良い機会になったのではないかと思ったので、来年以降も続けていければいいなと個人的に思いました。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

公民館から何かコメントあればお願いできますか。

○中央公民館(長峰館長)

今回こちらにいらっしゃる水野委員、伊藤委員、山崎委員もスタッフ側としてご参加いただきまして、地域の皆さん、和光国際高校、第二中学校、十文字学園女子大学、女性防火クラブにもご協力いただきました。今回の内容としてはバスボムづくりですとか、ロゼッタといいまして、缶バッチをこちらで作って、その周りに花飾りをつくる、そういったワークショップ。あとは、ドローン体験と、AI を使った塗り絵ですとか、多岐にわたったものをご用意させていただきました。来てくださった児童の笑顔ももちろんですが、こちらのスタッフ側もみんなが楽しくやっているような、アットホームな形でできました。非常にいい催し物ができたと考えております。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

では、続きまして、富澤委員、お願いいたします。

○富澤委員(意見)

民生委員としては、社会教育に関して自ら活動するという事は非常に少ないと思います。ただ、やはり私どもの地区では定例会で年間10回以上の講習を受けていますし、地域全体としても年10回ぐらい色々な講演会、講習会を開いております。生涯学習課からいただいた「わこう市政学習おとどけ講座」、あとは県からいただいた色々な講座や、社協からお知らせいただいた講座があります。こちらを見て、来月の定例会はどんな講師を呼んでお話をいただくかとか、それが今、会長の仕事になっています。なぜ社会教育とか、講演会を聞くかという、1つはやはり自分たちの知識を広めたいという思いがあります。もう1つは、そこで得た知識を今度は皆様、高齢者の方や保護者の方にお伝えしたいという2つの意味があって、10から20回以上の色々な講演会を開催しております。

ただ、苦情ではないのですが、市で実施いただいている講座は、全部を聞いたわけではないですが、先日も防災と消防訓練を兼ねた、こういう風にしたいという希望など細かい対応ができる講座がないですね。その時に消防団の方と危機管理室と打ち合わせをして、実際11月に講演と実演を混ぜた訓練を地元の方で行うことができるようになりました。色々な講座がありますけれども、こういう講座も非常に大事なのです。あとはですね、オーダーメイド的なものをお願いできるような、そういう対応ができる窓口があれば非常に助かるなど。そういうことを考慮していただきたいなと思っております。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

伊藤委員、お願いいたします。

○伊藤委員(意見)

地域自治会では、直近では先週に熊野神社でお祭りがございました。今週末には氷川神社のお祭りもがございます。それから、フードロスの問題がありますが、地域のコンビニから賞味期限ギリギリのものをいただいて、高齢者、単独高齢者にお渡しするのもやらせていただいております。地区社協が市内にできておりますが、地区社協は立ち上げからほとんどが自治会と地域で動いているのですが、公民館には色々ご協力いただきまして、今回は南公民館で防災講習会をやらせていただいております。

実は先ほどの図書館祭り、この日は中央公民館でも催事があるのですよね。せっかくすごくいい事業をしていただくので、この日時の調整とかを行政はもう少ししていただけないかと思います。コロナ明けになりましたけども、民家園とか児童センター含めて色々な行事が常にあるのですが、せっかく市民に対してありがたい取り組みをしていただいているのに、重なっているところがもったいないような気がしますので、そういったところももしご配慮いただければと思います。よろしく願いいたします。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。社会教育の秋ですね。
泉委員、お願いいたします。

○泉委員(意見)

先ほどから公民館の話がだいぶ出ていますけれども、私も公民館はよく使っています。そういった意味で先ほどの公民館祭り、あるいは文化祭というのは、公民館を利用するサークルの1年の成果発表、これがメインですけど、それに加えて、その地域住民の方との交流も大切だと思います。確かに色々な人が集まります。これまでもずっと見ていますと、大体開催が3日間で平均延べ2000人以上いらっしゃる。2000人以上が集まるということは、かなりの人数だということで効果が期待できるのではないかと思います。

ちなみに今年は5月に坂下公民館まつりがありました。これも盛大に行われて、この10月18日から20日の3日間、南公民館でお祭りがあります。南公民館のお祭りの特徴は、どちらかという、地域住民の方の協力というのがすごく多いです。地区社協だとか、あるいは身体障害者の、例えばワンステップさんとかスマイルポークさんとか、そういったような方々がいろんな形で協力していただきます。それと合わせて、南公民館の場合は第三中学校の方もやっぱりボランティアと、それからポスターの作成とか、あるいはイベントのサポートだとか、そういったような形でかなり地域に密着した感じになっています。

今年は実は39回目の祭りってということで、39(サンキュー)というとなんか皆さん連想できませんか？実は、イベントのテーマとして今年は感謝というところをテーマにしまして、感謝に関わるイベントを各サークルについても何か出してくださいと。公民館の利用に対する感謝、家族、学校に対する感謝、地域に対する感謝、そういった諸々の感謝という意味を含めて、感謝のお祭りにしようということで進めております。今、ほぼ体制を整えまして、来週に向かってラストスパートをかけているところでございます。

それからもう1点、10月25日から27日、これが27回目の中央公民館文化祭。なぜ文化祭かということ、実は中央公民館は参加されるサークルが約40サークルになります。展示だとか発表だとか、結構多いのです。そういった意味では、様相としてはやはり文化祭的な色彩が強いのかなということ。こちらは模擬店などが一切ありません。お弁当などの販売はありますが、それ以外のものはありませ

ん。南公民館は模擬店で色々な販売が行われているので多少違うと思います。そのため祭りというか文化祭というか、人が集まる場所は、皆さんが明るく楽しく元気よくといったような雰囲気を実施できればいいかなと思います。そういう私も、実はお祭りの実行委員やっていますので、皆さんも時間がありましたらぜひ参加してください。

で、付け加えますと、今年は南公民館で折り紙スポーツ大会をやっています。小学生以下対象で、自分で折り紙を作ってもらって、飛ばす距離を競うという形で、大体約3時間のイベントなのですが、そういったものを加えました。ぜひ、皆さん参加していただけたらありがたいと思います。よろしく願います。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

では、山崎委員お願いいたします。

○山崎委員

僕の方は、先ほどからお話が出ていますが、8月に中央公民館で行われました活動の中で、ドローンであったり AI を利用した塗り絵であったり、また、プログラミングの教室っていうのをメインでやらせていただきました。また、十文字学園女子大学の調整等は僕の方で全部やらせていただいて、少しでもお手伝いできたのかなと思っています。

一昨日、東京で子供食堂×プログラミング教室というニュースが出ていました。子供食堂で人を集めるという、この苦労している部分をプログラミング教室と一緒にやろうというのを見て、いいなと思いました。プログラミング教室とのコラボとかも今後できたらいいなと非常に感じていました。

ここにいらっしゃる皆さんもお声かけいただければ、ちょっと違った分野の、IT 分野もこれから必要になるところをご一緒できればと思いますので、お声かけいただければと思います。

○久米議長(議事進行)

ありがとうございます。

よろしければ、まだご発言いただいてない下新倉分館長いかがでしょうか。我々が参加できるもの、なにか情報提供いただければ助かります。

○下新倉分館(戸田館長)

下新倉分館長の戸田と申します。先日はお忙しい中、分館の方に来ていただいて、見学をしていただきました。光栄に思います。ありがとうございます。

今、分館は落ち着いている時ではあるのですが、障害者の方への支援として、LL ブックだったり、点字だったり、分館で色々なパターンで展示をしております。これにつきましても、ホームページ等で掲載しております。障害者というのはなかなか少ない部分ではあるのですが、もし和光市内にたった一人でもそういう方がいて、一人でもそういう本に触れてもらえたら、そういうものに出会ってもらえたら、図書館に行けばこういう本があるんだというのが分かってもらえたらということで、月ごとにテーマで展示しております。お越しになることが難しい場合は図書館のホームページでご覧になっていただけたらと思います。ありがとうございます。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございます。イベントではなくとも、日頃5分でも顔を出して見ていただくのも大事な活動だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。またウェブでも、デジタルミュージアムもやっておられるようですので、そちらも参考にさせていただければと思います。

坂下公民館長、いかがでしょうか。

○坂下公民館(江口館長)

はい、坂下公民館の江口です。坂下につきましては、お祭りは春に終わっていて、今は落ち着いた時期ではあるのですが、逆に言えば、それから半年近くが経ちまして、来年度に向けた準備が始まるころでございます。ちょうど来月頃から来年度の公民館まつりの実行委員会も始まる予定で、また予算も要求する時期になります。今年の実績を踏まえて、来年度にどういったものを改善していこうか、あるいはどんな新しいものやっいていこうか、まさに今考えているころでございます。皆様方にも、来年はこういうものやってもらいたいとか、もしご意見があればぜひいただきたいので、坂下にいつでもお越しただいて、ご意見いただければと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○久米議長(議事進行)

はい、ありがとうございます。

では、私は最後。先ほど水野委員からお示しいただいた「ふれあい通信」に、2回ぐらい前の会議でタイトルについて申し上げたら、早速検討いただき、こんな素敵な通信になりました。ぜひここでの意見も検討できるところからはじめて、形になっておりますので、皆様もぜひご意見お寄せいただければと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

また、先ほど皆様から様々な情報を提供いただきましたが、足を運んでいただくことも大事です。インターネット等で見ていただくことも大事なのですが、その際には、人数が多かった少なかったと、それももちろん大事なんですけど、そこだけではなくて、例えば、最初に話しましたけど、子供だけではなくて、支えている担い手であるボランティアの方とか活動されている方とか公民館の職員の方の動きみたいなのも含めて、ぜひ定性的な評価、その中身のところを見ていただければなという風に思います。また、皆様から来月以降、その感想等、ご報告いただけることを楽しみにして、今日は、終わりにできたらという風に思っております。

次回皆さんのチラシとか、もしよかったら持ってきていただいて、みんなで交換し合うっていうのも。社会教育全体、和光市全体の社会教育ですので。役所からも郵送で送られてきていますけど、お互いの団体のチラシや案内は見たことがないと思いますので、必要枚数は後で事務局に教えていただいて、よろしければ当日ご持参いただき、そういったものも配布資料にしながら、色々意見交換できればなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

では、本日の審議内容、全て終了いたしましたので、これにて議長の任を離れさせていただきます。委員の皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

○事務局(山本課長補佐)

本日は、長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。

今後、事務局では本日の会議録を作成しまして、各委員の皆様にご確認をさせていただいた後、市ホームページで公開してまいります。

次回の会議ですけれども、12月20日金曜日の午前10時より、またこちらの602会議室にて予定しております。

また改めて、後日開催文書等送付いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。気を付けてお帰りください。

6 閉会